

平成 28 年度第 2 回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 平成 28 年 10 月 7 日（金） 15 時～17 時
2. 会議場 松浦市生涯学習センター 研修室 1・2
3. 出席者

松浦市長	友広 郁洋	副市長	橋口忠美
松浦市教育委員会教育長	今西 誠司		
”	教育委員	武部 周清、白石しのぶ、市原 義光、島田茂明	
[事務局]	学校教育課	黒川 政信、加藤 洋一、	
	教育総務課	星野 真嗣、土谷由子	
	生涯学習課	浜崎 孝裕	
	文化財課	中田 敦之	
4. 内容
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 協議
 - ①平成 28 年度全国・県学力調査の結果について
 - ②松浦市における小中一貫教育の在り方について
 - ③教育委員会組織の在り方について
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり（要点記録）

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	只今から平成 28 年度第 2 回松浦市総合教育会議を開催いたします。はじめに友広市長がご挨拶申し上げます。
市長	<p>皆様こんにちは。本日は平成 28 年度第 2 回総合教育会議ということで、ご案内を申し上げましたところ、大変ご多忙なところお集まりいただきましてありがとうございます。教育委員会と市長部局が連携をし、更に教育の充実を図っていくということで、本日はこの会議に橋口副市長の出席をさせていただくことをお願いしております。よろしく願いいたします。児童生徒は夏休みを無事終えて、2 学期もすでに 1 か月を過ぎたところですが、今年も子どもたちがスポーツ大会で大変大きな活躍をしたということで、市民に明るい話題を提供していただき感謝申し上げます。（九州大会の陸上 1500m 優勝、県中体連の陸上 800m 3 位、女子剣道部 3 位、男子バレーベスト 8、松高のなぎなた国体団体 3 位等）</p> <p>前回の総合教育会議では、28 年度の教育委員会予算や事業等について説明をさせていただくと同時に教育委員の担当課制の提案、市内小学校の児童の推移を見ながら学級改革等の現状と対策についてご協議いただき貴重なご意見をいただきました。今回は、3 点の議題でご協議いただきたいと思っております。そのうち、私からは教育委員会の組織の在り方として提案させていただきます。いつも申し上げますが、教育の</p>

<p>教育総務課長 教育長</p>	<p>関係は教育委員会に全てお任せしているという考えに変わりはないのですが、27年度から総合教育会議を開催することにより私の考えも提案させていただきたいと思っておりますので、限られた時間ですが多い会議となりますようよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして今西教育長にご挨拶いただきます。</p> <p>教育委員会を代表いたしましてご挨拶いたします。本日は今年度第2回目の総合教育会議ということで、市長との協議の場を設けていただき誠にありがとうございます。本日は、橋口副市長にも参加していただけるということで重ねてお礼申し上げます。市長におかれましては、日頃から教育行政の推進に向け、ハード面ソフト面にかかる予算の確保等にご尽力いただいていることに対し重ねてお礼申し上げます。今年度は福島中学校の建設、市内小中学校におけるパソコン・電子黒板の整備などの教育環境の整備を行うこととしております。また、児童生徒においては市長からもありましており様々なスポーツ面において目覚ましい成績を残し、松浦市を大きく盛り上げているところです。教育は人づくりまちづくりの根幹だと考えます。市長におかれましても今後も引き続き教育行政に対するご尽力をお願いいたします。本日の会議は3項目のテーマが掲げられておりますが、私たちにとってどれも重要なテーマであり、市長、副市長、我々教育委員会との間で率直な意見交換が出来ればと考えております。場合によりましては、人的配慮や予算の面でお願いしなければならないことも出てくるかと思っておりますけれどもどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>後ほど橋口副市長にもご出席いただくようにしております。また、教育委員会事務局からは、4課から職員が出席をいたしております。それでは、これから協議に移らせていただきますが、議事進行は市長が行います。</p>
<p>市長</p>	<p>今日は3項目の協議を予定しております。早速ですが、平成28年度全国・県学力調査の結果について議題として協議に入ります。長崎県教育委員会から全国学力調査の結果が公表されており、皆様もご承知のことと思いますが、このことと合わせて県の学力調査の結果も出されているようです。まずは、担当課から資料に基づいて説明をお願いします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>長崎県学力調査の結果については、6月頃、新聞等で各市町の平均正答率が公表されたものです。小学校は5年生が受けておりまして、国語・算数の松浦市の平均正答率は、県の平均と比べるとどちらも上回っております。これは27年度も上回っております。教科別にみていきますと、国語では、文の中から主語を選ぶ問題や学級新聞の記事を書く問題は大変良い結果でしたが、今回ローマ字を書く問題（人名べっぷ）が書いていなかったというのが判定としてあがっております。算数においても課題とされていた（ ）を使って式にして表す問題は、改善されておりますが、数量関係を伴っている問題（B）には課題が残っているようです。中学校は2年生が国語と数学、3年生が英語を受験しましたが、松浦市は県の平均正答率を下回っております。27年度も国・数・英はいずれも下回っております。国語は若干近づいて、英語も若干アップしておりますが、数学が-3.9ポイントとなっております。漢字の読み書き等は良いのですが、やはり自分の意見をまとめる問題や関数・資料の分析に</p>

課題が残っています。英語については、聞くことや話すことは改善できました。ALTの活用により改善傾向にあるということだと思っておりますが、やはり読むことや書くことに依然として課題が残っています。

続いて全国学力・学習状況調査の結果ですが、小学校は6年生、中学校は3年生が受験しております。小学校の国語A・Bと算数A・B、中学校の国語A・Bと数学A・Bを受験しました。Aは基礎基本の問題、Bは基礎基本を活用して解く問題です。小学校の国語については、全国の平均を2ポイント下回っています。27年度は2～3ポイント下回っていましたが同じような傾向といえます。算数については、全国と同等の平均正答率でした。27年度は3～4ポイント下回っておりましたので、市の学力調査や課題改善状況調査の成果や授業の改善の結果と言えます。やはり、国語では条件作文（決められた文字数で自分の考えを文章の根拠を踏まえながら書く）などに課題があります。算数では改善が見られますが、まだ、百分率の問題や数量関係の問は課題があるようです。中学校については、国語が3～4ポイント、数学が2～3ポイント下回っています。昨年度からすると国語は若干下がり数学は改善が見られる状況です。国語では敬語に関する問題は良いのですが、目的に応じて文章を要約するとか自分の考えを書く問題に課題がありました。数学では、図形領域は改善が見られましたが、関数領域や資料の活用領域に課題が残りました。説明で3ポイント下回ったと申し上げましたが、問題数が約30問ですので、あと1問正解すると全国平均までポイントが上がるのですから、もう1問正確に解けるように指導の徹底を図るよう、そこを目指して欲しいと校長・教頭に指導しているところです。

同時に学習状況調査というものも実施されておりますが、次のような良さがあるという結果が出ております。小学生では「自分には良いところがありますか」という問いに「良いところがある」と答える率が高く、自己肯定感が身につけているということです。今住んでいる地域の行事やボランティア活動に参加しているかという項目は、他市町と比較してかなり高いレベルです。中学生においては、学級のみならず協力してやり遂げたことはあるかという項目は、大変高いレベルになっています。運動会や体育祭、文化祭などの行事や活動を見るとそういうことが言えるのだなと考えております。また、小学生と同じく地域の行事やボランティア活動に参加しているという項目で、他市町より高いレベルとなっております。

これまでの取組と今後の取組についてですが、27年度は校長研修会や教頭研修会において指導し、研究主任対象の研修会を開催し、また、市で予算をつけていただき学力調査や課題改善状況調査を実施しました。教育支援員の配置も特別支援教育が主ですが配置していただいて、効果も出ております。この他、生活習慣マネジメント事業に取り組み、県教育委員会指定のICTモデル校事業にも福島中・調川小が取り組みました。

毎回、学力について校長研修会・教頭研修会で指導しておりますので、校長及び教頭の意識、教職員への指導が深まったと思っております。県教委から講師を招いて研究主任対象の学力向上研修会を実施しましたが、内容は各学校の校内研究に生かされました。また、市の学力調査後

	<p>のフォローアップ教材についても予算をつけていただき、活用が推進されました。先ほども申しましたが、教育支援員の活用については、特別支援教育に係る児童生徒への支援の部分が大きいのですが、学力向上にも効果が出ております。その他、ICTモデル校事業においても児童生徒の学習意欲や教員の分かり易い説明など学力向上に効果が上がっています。</p> <p>しかし、課題もあり、学力調査については単なる調査としてではなく、更に教職員の意識と実践の一層の向上を図りたいと思います。学校によってはまだ、授業改善の必要がありますので学校訪問等を通じて指導していきたいと思います。課題改善状況調査に向けての各学校の一層の取組の充実を期待しているところです。</p> <p>今年度の取組ですが、27年度の事業に加えまして、中学校数学非常勤講師の配置として市で5名分の予算を付けていただきましたが、なかなか人財確保が難しく、免許も必要ですので完全な実現に至っておりません。現在、4名配置しております。また、市教委指定の研究校の指定を2校いたしまして各校20万円の予算を活用させていただいております。さらにパソコン及び電子黒板等を整備していただき、ICT教育を推進していくようにしております。</p> <p>29年度以降に向けては、人的な事項と物的な事項としてあげておりますが、人的な事項として、教育支援員の増員と配置の拡大、非常勤講師の継続配置、また、1学級40人以上の学校の非常勤講師の配置ができれば学力向上に効果的だと思っております。物的な事項としては、中央研修の機会や市教委主催の研修会への中央からの著名な講師の招聘、松浦市独自の学力調査の対象学年・対象教科の拡大、学校図書費の増額、研究指定校の継続、ICT機器の導入をお願いいたします。更に英語力アップ事業等も考えていきたいと思っております。</p>
市長	<p>只今、市内の児童生徒の全国・県の学力調査について説明いただきました。この件について、意見交換をしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
教育長	<p>本市では塾に通う生徒が非常に少ないです。大きな町の子どもについては、より点数をあげるために塾に通っている児童・生徒が多いのですが、本市の場合、それがほとんどありません。それなのに大きい差になっていないのは、学校や先生方の努力であろうかと思っております。ポイントも若干上がってはいるのですが、まだまだ課題も多く残っている状況だと思います。</p>
武部委員	<p>今福中学校の授業参観をしましたが、数学の非常勤講師を配置していただき、非常に面白く、子どもたちも興味を持って飽きない素晴らしい授業でした。経験豊かな退職された先生などを配置できれば、課題である数学の学力も向上していくのではないかと実感しました。</p>
教育長	<p>数学の非常勤講師として今年度から配置していただきました。退職された野宮校長先生が、私で良ければということで一般の教員と同じような立場で授業されていて学校としても大変助かっております。</p>
武部委員	<p>興味のわくような楽しい授業や問題を出題する先生がTVでも紹介されて番組もやっておられますよね。ああいった先生が身近にいらっやったらいいなと思います。非常勤講師の先生の授業を観ていい授業だな</p>

	<p>と思いました。もう一人の先生も非常勤の先生から刺激を受けて更に専念され、面白い授業を研究されるのではないかなと思うところでした。英語力については、海外に行き交流したりすることで上達するわけですから、ALTの先生を活用し、積極的に推進していかなければならないと感じました。</p>
市原委員	<p>松浦市の小学5年生の平均正答率が上がっているという数値がありますが、この子たちが中学生になった時は全国や県の平均を上回ってくるのではないかと期待しています。やはり小学生のときから基礎基本が身につけていないと中学生になって伸びてこないですから、先生方の努力がこのように結果として表われているなと思いました。ということは、この5年生が中学生になった時は平均正答率が上がっているということになるだろうと期待をもっているところです。</p>
白石委員	<p>逆に小学校の時は、県平均並みなのに中学校になって、どうして下がるのだろうかと思うのです。この子たちが中学校になった時もプラスになっていけば良いですが、この中学校でマイナスの値を出した子たちが小学生だった時の値はマイナスだったのですか、それともプラスだったのでしょうか。少し疑問に思いました。</p>
学校教育課長	<p>実はマイナスでありました。24年度は中学校の値は良かったのですが、その後だんだん厳しい状況になり小学校もここ1～2年は良いのですが、それまではマイナスが続いておりました。</p>
島田委員	<p>自分の現職の時代からすると学力は上がってきているように感じております。特に小学校は全国並みになってきているようですので、これまでの取組の効果が出てきているのではないかと思います。学力調査のフォローアップ教材により、悪かったところをピックアップし重点的にフォローしていくことがしっかりなされているということは、それぞれのマイナス部分が改善されているということでしょう。教育支援員の活用については、きめ細かな教育が大事ですので、教職員一人一人の子どもたちへの目の配り方というのは、学級の人数が多くなればなるほど行き届かない部分がありますので、そこへ支援員が入れば、きめ細やかな指導が行き届き大きな効果が出てきているのではないかと感じております。</p> <p>生活習慣マネジメント事業への取組ですが、普段の生活の中で睡眠をとるとか朝ごはんを食べるとか基本的な習慣というのは、学力の向上に直接結びついているのではないかと思います。そこら辺りをしっかり取り組まれていることも学力の向上につながったのではないかと感じます。</p>
市長	<p>この資料を見た印象ですが、教える側（教育委員会・学校）は一生懸命取り組んでいることが分かるのですが、習う側（保護者・子どもの環境）が少し心配な状況もあるということで、教える側と習う側の連携がうまくいっていないと、効果というのはなかなか出てこない。予習復習や練習をする家庭学習の時間の確保をしっかりと考えていかなければならないと感じます。例えば、親子学習教室等を実施するとか家庭環境の支援が重要だと考えます。市長部局とも連携し、何かお手伝いできることは無いか、働きかけができる分野があるとなれば、今後呼びかけていかなければならないと思います。それから、ふるさと納税をお願いしてお</p>

武部委員	<p>りまして、28年度どの程度実績があるか分かりませんが、私はふるさと納税の活用について、松浦市は教育に充てているということが言えるような使い方というか、取組を考えておりますので、今後教育委員会等で協議され、来年度の予算に反映できるようなご提案をいただければと思います。やはり基本は家庭ですよね。</p> <p>市長がおっしゃるように生活習慣マネジメント事業に取り組むということは今後も力を入れていただきたいと思うのですが、親が動けば子どもも動くし、親が本を読めば子どもも本を読む。時間の使い方というか計画（食事、家族のだんらん、子どもとのふれあい）を立てるということ、家庭の環境も様々あるのですが、子どものための親の取組が非常に大切です。親がいかにか子どもに対して関わったかが一番だと思います。そういう点で生活習慣マネジメント事業に取り組んだことは非常に効果的だったと思います。</p>
市長	<p>子どもに勉強しなさいといいながら親はTVをみているということでは、なかなか定着しません。やはり、家庭学習の時間は親も本を読む。以前、子どもの集中できる時間は15分程度だと聞いたことがあります。なぜかというとなんかTVが15分経つとCMになるからだと。TVの影響でそのような習慣になっているという話を聞いたことがあります。やはり、家庭環境が大きく影響するのですね。</p>
教育長	<p>P T A関係で言いますと、親の感覚を意識されるにはP T Aの活動をもう少し活発にしなければならないし、学校でP T A活動をすると、来てほしい親子が来ないというのがあります。生涯学習課とも連携してやっていかなければならないと思います。やはり経験してみても思うのですが、やはり担任ですね。人間味のある担任がいれば、たとえ支援員を配置しなくても学力は上がっていきます。ただ、残念なことに松浦市出身の教員が現在の50代は結構いるのですが、20代や30代にほとんどおりません。市内出身で教員になろうと思うものがないわけなので極端にいうと、20年後には1割くらいしか市内出身の教員がない状態になる恐れがあります。やはり出身地となると思いや意識が違ってくるものですから、その点も大きな課題です。教員になりたいと思う子を増やすこと教員になれる学力をつけることも大事なポイントとなっております。</p>
市長	<p>本日は意見交換ですので、この件については教育委員会でまとめていただき、実行する手法について検討していただければと思います。</p> <p>次の議題に移らせていただきます。8月9月の定例教育委員会において、松浦市における小中一貫教育の在り方について協議をされたということですが、その内容についてご説明いただければと思います。</p>
教育長	<p>まず、この件についてなぜ教育委員会で協議したかということですが、新しい指導要領において、小学校で英語を学習したり、小6までは学校に行けたのに中学校では不登校になったりとか、子どもの体力・体格が成長著しくなったりして変化している中で、これまでの6・3制でなく9か年の中で柔軟に指導できる体制づくりということで、小中一貫教育ができるよう法の改正が行われました。全国・県内でも取り入れている学校があるのですが、教育委員会としても中学校の先生が小学校に来て英語を教えることができるのか、小中の連携をしっかりと取り組んだり</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>か、行事を小中合同で行ったりとかいうことについて論点となったことから協議をしました。内容については学校教育課長から説明します。</p> <p>資料をご覧ください。教育長から定義や国の動向については、話がありましたが、国の動向として小中一貫教育が求められる背景としては、①法の改正による義務教育の目的・教育目標規定の新設、②近年の教育内容の量的・質的充実への対応、③児童生徒の発達の早期化等に関わる現象、④いわゆる「中1ギャップ」への対応ということで、全国で地域の実態に応じた小中一貫教育ができるのではないかとということで取り組みだしたものです。③についても子どもの身体的発達が昔に比べて2年ほど早くなっている状況があります。それで、小学校6年、中学校3年制で良いのか、また、いわゆる中1ギャップへの対応としまして、小学校は学級担任制で担任によるきめ細やかな指導・グループ活動の重視した指導ということになります。テストのやり方も小学校では单元ごとのテストですが、中学校に行きますと学級担任制というよりは教科担任制、学習のスピードも速くなりますし、テストの状況も変わってきます。生徒指導や部活動にうまく適応できずに、不登校が現れるということがあります。そこで、小中一貫校の類型としまして、大きく2種類、義務教育学校というものと、これは全く新しい小中を分けない9年間でやっていく義務教育学校、また、現在の小中学校の制度は残しながら小中一貫型としてやっていくのが小中一貫校となります。校舎が近くにあって、併設型というものが最も多くやられているのではないかと思います。様々な組織運営については、義務教育学校は、校長が1名だとか、小中一貫型の場合はそれぞれの学校に校長が1名ずついるとか違いがあります。ただ、教育長からの説明もありましたが英語・理科などの一部の教科では教員の乗り入れができるという良さがあります。</p> <p>県内において、小中一貫型を実施しているところを載せておりますが、小値賀町ですとか五島市奈留町、佐世保市宇久町などは、高校まで入れた小中一貫教育を行っているという特徴があります。長崎市では野母崎小中で、併設型の一貫教育を行っております。佐世保市が次年度から広田小で小中一貫教育を始める。同じく、金比良小と光海中が県内初ということで紹介されていましたが、高校まで含んでいないものでということで県内初と言われたのかなと思いました。</p> <p>小中一貫教育というのは、良さもあるので松浦市が目指す小中一貫教育というのは小中一体となって保護者や地域と連携して、学力向上や学校生活への適応を図り豊かな人間性や社会性を育てることを目指して、小中一貫教育を導入してはどうだろうかということでもあります。また、その実現に向けては、地域社会が一体となって児童生徒を育てることはもとより、義務教育9年間を見通した教育を行うことが重要であります。そこで、小中学校が互いに、情報交換・交流することを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指すこと及び小中連携を図ることを基本として実現をしたいと思っております。また、円滑な小中連携の基盤に立って準備期間を設け、福島地区・鷹島地区で併設型小中一貫校を推進していったらどうかと考えております。</p> <p>松浦市における小中一貫校の類型としては、義務教育学校ではなくて、それぞれ小学校、中学校という組織を残しながら連携を強化して教師の</p>
---------------	---

	<p>レベルも伸びるように併設型小中一貫校を推進することが最も適切ではないかと考えております。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>様々な形態はあっても、松浦市が目指すのは併設型の小中一貫教育ではないかということですが。</p>
<p>教育長</p>	<p>特に福島地区は、小学校・中学校・共有棟ができており、体育館も運動場も1つで、まさに小中一貫教育がすぐにできる環境ですので、早めに関心を持って実施したいと考えております。鷹島の場合も校舎建設ということで、できれば福島と同じような感じで小中が隣接した中で、共同で使用できるものは使用し、保護者も一緒にPTA活動ができる、場合によっては体育大会も小中合同にして、島民が集まり盛り上げるというようなことで進めていきたいと考えております。以前神田議員からも質問があり、そのような方向で進めていきたいと答弁しております。</p>
<p>市長</p>	<p>このメリットというか効果については今説明いただいたのですが、例えば併設型から単独校へ転校した場合や単独校から併設校に転校した場合とかは、特に子どもの混乱や戸惑いというものはないのでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>そのような戸惑いということでは、義務教育学校というと9年間を通じた教育ですので、学習内容を先の学年と入替たりもするのですが、併設型であれば小学校は小学校で、中学校は中学校の中でやりますので、転校の場合の影響は、おそらく併設型の方が少ないであろうと考えられます。</p>
<p>市長</p>	<p>現行は6・3・3ということで、ここ数年のうちに移行するというのではないのでしょうか。市教委はどのように認識しているのでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>今のところ、基本的には小学校は小学校の6年間、その中で小学校の英語教育に中学校の先生が来て教えるとか体育の先生が教えるということが出来ますし、生徒指導も連携してできますので、しばらくは今の形態ということで考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>制度的には6・3・3ということで、教育内容が若干変更し連携ができるということですね。</p>
<p>武部委員</p>	<p>小学校、中学校の連携と高校の連携があるのですが、非常に面白い連携だと思います。松浦高校も小中と連携してやっていければと思いますが。私立の小中高の一貫校は殆ど高校まで一貫教育でやりますよね。松浦市も高校までの連携を持っていけば面白いのではないかと思いますので、いかがでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>中学校までが市の教育委員会、高校は県の教育委員会という管轄がありそのあたりが難しいですね。</p>
<p>教育長</p>	<p>小値賀や宇久についてはあくまでも島内ということで、ごく小規模の学校でありますし、そうした場合にやはり、中高連携が始まったのですね。数が少ないので一緒にして高校の専門性を中学校に生かしてというようなことで、特別に認めた中高連携です。高校の場合も普通科しかないので連携もしやすい状況にあります。仮に松高と志佐中と連携するとしても、なかなか工業や商業に行きたい子もいるのでしょうから、今の段階で中高連携は、小中高の連携は松浦市ではなかなか難しい状況です。もし、そういったことが出来れば理想的でしょうけれども。</p>

市長	<p>確かに離島の場合は、まず中高連携がスタートということですのでそういったこともあるでしょうが、県の見解というのは結構大きいのかなと思うのです。例えば志佐中と松高の連携といった時に中学校側がそのメリットというのがどのようなものか。</p>
副市長	<p>私は県の教育委員会におりませんでしたので、よくは分かりませんが、これまでの議論を聞いておりますと各市の中高一貫をさせてほしいという要望が地元からあるのですが、県の教育委員会のハードルは高く、なかなかそのようにはならないという状況です。長崎市などは選択肢がたくさんあって中高一貫か従来からの学校か選択できる地域であれば、そのようにできるのでしょうか、松浦でそこを希望しない人は、市外に行くしかないという選択肢になってきますよね。そういう状況を考えると中高一貫は政策としてとりにくいのではないかと思います。少数の児童生徒ということで、もう独立してもまともな教育ができないというような状況にあるところが中高に連携をしかたなくやっているという気がするのです。そういう意味ではなかなか難しいかなと思います。当然ながら連携の必要性があるからそこはそこで見極めでしょうから。</p>
教育長	<p>鷹島の校舎建築に関しても住民との協議を進めていくという状況にあるものですから教育委員会としては、小中一貫教育型を推進していきたいということをお伝えしながら、ではどのような校舎造りが良いのかと進めていきたいと思っているのですが、それに対する市長のご了解をいただきたいという思いがあります。</p>
市長	<p>様々ご意見が出ましたが、私としましては小中一貫校ということについては理解をいたしましたし、松浦市としては併設型がいいのではないかなと思っています。中高ということに関してもありましたが、まずは小中一貫校の併設型を推進するということが教育委員会としての意見であるということで理解したいと思います。</p> <p>では、ここで休憩とします。25分から再開します。</p> <p>〔休憩〕</p>
市長	<p>再開します。教育委員会組織の在り方については私の方から提案させていただきます。基本的に、教育委員会の体制等については、教育委員会主体でという考えは変わらないのですが、今西教育長のカラーを出していただくきっかけになればと思ってお話をさせていただきます。資料にあるのが現在の教育委員会の組織ですが、私の率直な意見を申し上げますと、教育委員会の組織について、県や他市には、市長部局にその一部を担う部署があるということについて、教育委員会として組織の検討をしていただきたいというのが一つであります。</p> <p>もう1点は、教育委員会組織規則により現在、4課と分室があるのですが、私としては課の増設については慎重にお願いしたいと考えております。現行の4課ということで考えていただいて、各課の係と課の業務分担のバランスをご検討いただきたいと考えております。生涯学習課の分野があまりにも広すぎると考えており、生涯学習課の所掌事務を見直して、(人的配置というよりは)職務の範囲をある程度バランスよくできないか検討していただきたいと考えております。</p> <p>また、もう一つ、11月1日からモンゴル村が休村するという異状事態にならざるを得ない状況になりまして、今までモンゴル村は観光の核</p>

	<p>として取り組ませていただきましたが、厳しい状況となっております。今後は、松浦の大きな柱として「元寇水中考古学」をしっかりと取り組んでいくということから、文化財課で所管している鷹島歴史民俗資料館と鷹島埋蔵文化財センターと、それから水中考古学を取り組むことができる、そういった拠点組織をつくるということにして、今後鷹島を日本の水中考古学の拠点に移行できるようにできないかと考えております。</p> <p>水中考古学の研究センターを国の機関として設置していただきたいということと、専門的な組織について国にお願いしていくのですが、お願いするだけでなく、市も拠点組織をつくってはどうかということで、鷹島の歴史民俗資料館・埋蔵文化財センター・水中考古学と3つをうまく網羅させてできないかと思っております。ただ、教育委員会の組織であることから、突っ込んでいこうとは思っていないのですけれども一つの市長提案としてご検討いただきたい項目として申し上げ、皆さんのご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>教育委員会新制度に移行しましたが、各教育委員会にそれぞれの担当の課を持っていただけないかと申し上げておりましたが、そのことも含めて意見交換したいと思っておりますので忌憚のないご意見をお願いします。</p>
教育長	<p>前回、市長から教育委員の担当課制についてのお話をいただいたので委員会で検討させていただきました。教育総務課は武部委員、学校教育課は島田委員、生涯学習課は白石委員、文化財課は市原委員ということで、それぞれの専門分野で関係の深いものを考慮しながら、会の中でも視点を置きながらやっけていこうと考えております。</p>
副市長	<p>市全体の流れとしては、人員を増やすということは難しいのです。現在、定員適正化計画に基づき市全体の職員を減員している状況でありますので、教育委員会の組織を仮に見直しをしても、それによる人員増は想定しにくいので、業務の量をバラすということを検討しなければならぬと考えます。もう一つは、目玉になる神崎遺跡について、現場に分かり易い拠点づくりを検討するとすれば、現場にそれなりの人員を配置することになりますので、余裕をもって業務を見直さないと人の配置は、難しいと思います。現在の問題・やりにくい部分があれば、業務を見直さないといけないと思うし、特段、事務局で違和感がないのであれば、単なる業務の見直しということで無理にやる必要はないという気がします。特徴を持たせるという意味では、現場にある歴史民俗資料館と埋蔵文化財センターは市の施設（文化財課所管）であり、分室との兼ね合いもありますから（鷹島分室：分室長1名と嘱託1名、歴民：文化財課長兼務と嘱託2名、埋蔵センター：職員1名と嘱託3名）現状を踏まえたうえで、現地の拠点という位置付けで、水中考古学を強化（特徴付）していくことになると思っています。そういった全体のことも考えながら、今、事務局で違和感がないのなら無理にはがすようにするのではなく十分に議論をされた方が良くと思います。</p>
市長	<p>生涯学習課の業務がやはり広すぎるので、もう少し教育総務課に分けられないかと思うのですが、現在、庶務・会計・契約は各課で行っていますか。</p>
教育総務課	<p>学校教育課分の庶務は教育総務課で行っております。後は、それぞれ</p>

市長	の課で処理しております。
武部委員	教育総務課が生涯学習課や文化財課の庶務も総括するというのはどうでしょうか。各課で行っている庶務や会計、契約事務等、生涯学習課の業務を教育総務課に分けるとするのも1つの考え方ですね。
教育総務課長	日頃から生涯学習課の分野は多すぎると感じていました。スポーツの一部、社会教育係の一部の業務を教育総務課へ分けた方が良いという感じがしています。
市長	ちなみに、他市の状況等を調べておりましたが、市長部局でスポーツ関係部（スポーツ課・スポーツ推進課）がある市は、長崎・諫早・大村・五島の4市、教育委員会内に生涯学習課と別にスポーツ課を設置している市が佐世保・島原・雲仙・南島原の4市、残りの市町は本市同様に生涯学習課にスポーツの係を置いている状況です。
教育総務課長	色々和教育委員会で協議していただきたいですね。
副市長	他市の状況等を調べてみまして、本市と決定的に違う点は人的交流事業というのがありまして、特に国際交流事業については、全市教育委員会以外の部局で担っているという状況です。国際交流については、昨年度教育委員会に移管されたばかりですので、どうかと思いますが。
教育総務課長	確かに国際交流については異質ですよ。生涯学習課の事務分掌としては人的交流事業とありますが、内容は、国際交流と国内の児童生徒の交流ですね。確かに国際交流について生涯学習課の業務とするのは、若干違和感がありますね。
副市長	特に子どもの派遣や受け入れについては、8月の中旬となり、国内交流と国際交流と時期が重なっており、非常に対応に苦慮している状況です。
生涯学習課長補佐	国際交流を担当しているということで、現在、語学に堪能な職員（2名）を配置しています。国際交流の業務が他課へ移れば当然その職員も移ることとなりますよね。そうすると益々業務が増え負担が増えるのではないのでしょうか。人的交流として、国内交流も国際交流も行っているのですから。
市長	昨年度は国際交流担当者が国内交流についても担当していたのですが、負担が大きく、本年度は係内で分担することとし対応しましたので、昨年度と比較するとスムーズに対応できました。ただ、国際交流についての事務処理の面で適切ではなかった部分が見受けられましたので、本年度、係内の業務分担の見直しを指示しているところであります。
教育長	私ののは、表面的な面での提案ですので、中身についてはやはり実際の担当課でないと分からないことです。
市原委員	文化財課に関しては、学芸員の資格を持ったものは2名しかおりませんので、1名は鷹島です。本庁には1名しかおりません。将来的に水中考古学の拠点或いは博物館機能をもった施設をつくって、観光面においても力を入れていくとなると歴史や埋文の機能を含めたものを設置し、状況が許せば専門的な方に入っていただいて、独立したかたちにする。また、従来ある文化財課については、学芸員の資格をもった正規の職員を配置していただきたいと思います。
島田委員	是非新しい施設について検証していただき、引き続き現課長にも担っていただきたいと思っています。
	やはり水中考古学の拠点ということで、国の指定にもなっているのです

<p>市長</p>	<p>から、大きく打ち出す必要があると思います。専門家を鷹島において、国に発信していくことが発展につながるでしょうし、水中考古学の研究につながっていくと思います。</p>
<p>白石委員</p>	<p>水中考古学を特化させた方が良いと考えております。現課長は、国内外の人のつながりも非常に深いので。</p>
<p>市長</p>	<p>他にご意見はありませんか。</p>
<p>副市長</p>	<p>生涯学習課は、行事も多く、夜や休日の業務も多いので、休暇もとれているか心配しています。どの課も業務が多いですが、少しでも業務の分配ができるのなら随分良いと思います。</p> <p>今回は一つの話題として、教育委員会組織の在り方を議題としましたが、後は教育委員会でよく検討していただきたいと思っております。</p> <p>その他、何かございますか。</p> <p>無いようですので、ここで本市の現状について少しふれておきます。</p> <p>1年前の6月に、浦ノ崎にある伊万里松浦病院を組織している「JCHO」から現地建替えが厳しいという状況になっているので松浦で展開することを検討しているという申し入れがありました。あれから1年過ぎましたが、なかなか表面上の部分が見えないということで、今年3月にJCHOの理事長がお見えになり、基本的には松浦市で新しく展開することに変わりはないけれども、伊万里市でも存続の運動が色々出てきているので、早急に進めにくい部分があるという話がありました。我々としては、早く松浦で展開することを表明してもらえないかと要望してきたのですが、なかなかそれもできていない状況です。その背景の一つは、そもそも松浦市も含めて、県北地域の医療機関のベッド数が多い、過剰な地域であるということで、そのような中で新しい病院を松浦に整備するということは、厚労省の課題（問題）があるというご意見でした。現時点での考え方は、100床の病院を展開するとなれば、現状からベッド数を減らして地域の医療計画をつくってもらいたいという要請がっております。医療機関としてのベッド数の増はできないので、そういったところの調整が必要になってきます。9月には直接伺って、その後動きが無いので確認しましたら、基本的な考えは変わっていないということでした。厚労省からも言われているので医療機関の今後のベッド数の推移を含めた形での松浦市における医療計画をつくりましょうというのが、この件の現状です。</p>
<p>市長</p>	<p>微妙なこともありますのでこの件についてはここまでとします。他に何かありますか。</p>
<p>武部委員</p>	<p>今福のスポーツ施設、野球場の整備については、まだ時間がかかるのでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>開発行為において指摘があつておまして、修正をしております。整理が出来て、その許可がおりましたら本年度中までに変更して、来年度は野球ができる状態にしたいと考えております。</p>
<p>副市長 生涯学習課長補佐</p>	<p>野球場の設計は出していましたか。</p> <p>県の開発行為の手直しと設計を同時にやっています。</p>
<p>副市長 生涯学習課長補佐</p>	<p>設計は発注しているということですか。</p> <p>造成工事を発注するための設計書を今作成中です。</p>
<p>副市長</p>	<p>野球場の設計はまだですか。</p>

生涯学習課長補佐 副市長	それは来年度の事業です。 設計と施工を一緒にするのですか。
生涯学習課長補佐	今年度は造成工事をするということで、造成工事の設計書を作成中です。来年度に野球場の整備工事を発注するというので、来年度やるのですが、建設関係の設計を現在、発注しているところです。
市長 島田委員	他にありますか。 先日、小学校の陸上競技大会が行われたのですが、雨が降っておりまして、コースに水が溜まっていて、スポンジで吸い取ったり砂を入れたりして整備をしたのですが、これが全天候型の施設であれば最後までできるのと思ったところでした。予算もかかりますし、そういった施設があったらよいなと思いました。
市長	生涯学習課を責めることにもなるかもしれませんが、屋外体育施設の整備方針を早く決めるように、それによって整備を進めていくこととしておりまして、まずは今福について、本格的な野球が出来る野球場の機能を持ったスポーツ施設をつかって、その後、運動公園については400mトラックを整備するというの柱は決まっているのですから、どの程度のウエイトで、どうするかというのを（例えばナイター施設をどうするか）早く基本方針を決めて、松浦市の屋外体育施設についてはこのように整備するという方針をきめるよう計画を指示しているところです。
教育総務課長	子ども議会でも提案がありましたので、子どもたちの提案も受け止めて対処したいというのは担当課でもあるのですが、なかなかですね。 次回の総合教育会議ですが、1学期に1回という原則で開催することになっておりますので、3学期の1月以降で日程を調整させていただきたいと思っております。以上です。
市長	時間もまいりました。それでは、これで会を閉じたいと思います。本日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。 以上